

IAUD Newsletter Vol.4 第17号 (2012年2月号) 目次

1. 特集：標準化研究 WG「やさしい日本語」講演会開催報告・・・1
2. IAUD 3月の行事予定・・・4

減災を実現するための情報手段

活動報告：標準化研究 WG「やさしい日本語」講演会開催



東日本大震災後に注目されている「やさしい日本語」を用いたコミュニケーションの試みに着目している標準化研究 WG は、1月27日（金）に大東文化大学外国語学部日本語学科の前田理佳子講師（写真中央）を迎えて、「やさしい日本語」をテーマにした講演会とワークショップをIAUDサロンで開催しました。その様子を同 WG 副主査の松田崇氏に報告してもらいます。

■講演会開催の経緯

同 WG はさまざまなユーザーについての特性を理解するための活動を重ね、「IAUD・UD マトリックス」や関連ツールとしてその成果をまとめています。

「IAUD・UD マトリックス」では、機器やサービスを利用するにあたってユーザーが直面する困難なシーン「特殊な状況下」において、「難しい言葉や漢字がわからない」「外国語や方言がわからない」といった言語理解に関する状況についても触れています。このような状況への対処として、従来は多言語表記といったことがなされてきましたが、同 WG は、阪神淡路大震災をきっかけに研究が広げられ、今回の東日本大震災でも注目された「やさしい日本語」という新しいコミュニケーションの試みに着目しています。「やさしい日本語」は、だれもが理解できる日本語を使った情報提供手段で、弘前大学人文学部社会言語学研究室の佐藤和之教授を中心に日本各地の研究者によって研究が進められています。

今回は佐藤教授に前田講師をご紹介いただき、「やさしい日本語」についてご解説をいただきました。

前田講師は、大規模地震などの災害時に日本語に不慣れな人にどのような情報提供をするのがよいかを考える共同研究プロジェクト「減災のための『やさしい日本語』研究会」メンバーでもあります。

■ 「減災」という視点から (標準化研究 WG による講演要約)

「やさしい日本語」の研究は、災害時に情報弱者を減らす「減災」の取り組みとして、阪神淡路大震災以来各地で行われてきた試みの一つです。

日本語に不慣れな人にとって、一番わかりやすいのはその人の母語です。しかし、日本にいるさまざまな言語背景の人達に対して、災害時の切迫する情報をマイノリティ言語まで含む多様な言語で網羅して伝え広げることが極めて困難です。

そのため、日本に滞在する外国人がある程度の日本語の能力を身につけていることを前提に、緊急性を要する情報を少しでも広く伝え広げ、「減災」を実現することを目的とした「やさしい日本語」の研究が進められてきました。

「やさしい日本語」は日本語能力試験 3 級 (従来試験の等級。新しい基準では「N4」) 程度が理解できる外国人を想定しています。これは、一年程度集中して日本語を学んだ人のレベルで、「日常生活には困らないが役所の書類は難しい」くらいだそうです。以下に例を示します。

<原文>

けさ 5 時 46 分ごろ、兵庫県の淡路島付近を震源とするマグニチュード 7.2 の直下型の大きな地震があり、神戸と洲本で震度 6 を記録するなど、近畿地方を中心に広い範囲で強い揺れに見舞われました。(1995 年 1 月 17 日 NHK ニュースより)

<「やさしい日本語」化>

今日、朝、5 時 46 分、兵庫、大阪などで、大きい地震がありました。

神戸は震度 6 でした。

地震の強さは震度 6 でした。

「やさしい日本語」の対象は、日本語ノンネイティブの外国人だけではなく、日本人を大部分とする日本語ネイティブも含まれます。

「やさしい日本語」の表記を目にすることによって、一緒に被災した日本語ノンネイティブに対して日本語でもコミュニケーションが可能な場合があることを想起させる効果が期待されています。

また、通常の日本語から「やさしい日本語」への翻訳をおこなう支援者は、必ずしも日本人ではないという前提です。留学生がこの作業をおこなうこともあります。

あらゆる言語において、表現をすべて別の言語に翻訳することが不可能なように、日本語で表現されるものをすべて「やさしい日本語」に翻訳することは不可能です。

やさしい日本語への翻訳では、情報を捨てたり、文体を変えたりすることがあります。このことから、「減災のための『やさしい日本語』研究会」は、「やさしい日本語」の使用範囲を災害発生後 72 時間の緊急情報に限定しています。

なお、「やさしい日本語」には、災害後 72 時間を越えてある程度落ち着いたときに、多言語情報に移行するための情報を伝える役割も期待されています。



■ 「やさしい日本語」化のミニワークショップ

講演の後、「やさしい日本語」翻訳の手順の説明がおこなわれ、例文を各自訳してみるミニワークショップが行われました。

「やさしい日本語」化の手順（前田先生配布資料より 一部改変）

- 1：重要な内容は何かを見定める
 - －何が？ どうした？ どうだ？ なんだ？ いつ？ どこで？
 - －減災のために取るべき行動は？
- 2：情報の配列を考える
 - 行動指示を含まない場合
 - ①トピック／呼びかけ
 - ②状況説明
 - ③（例示／補足）
 - 行動指示がある場合
 - ①トピック／呼びかけ
 - ②（状況説明）
 - ③行動指示
 - ④（理由説明／例示／補足）
- 3：やさしい単語、重要な災害用語を選ぶ
- 4：単純な構造の文をつくる
- 5：言い換え表現の文を挿入する

<例題 1>

[理由説明] 割れたガラスや食器類でケガをすることがあります。

[行動指示] 家の中でもスリッパや靴を履いてください。

[行動指示] 片付けをするときには厚手の手袋をはめましょう。

<配布された訳例>

[トピック提示] ケガをしたら大変です。

[行動指示] 家の中でも靴やスリッパをはいてください。

[理由説明] ガラスやコップが割れているかもしれません。

<筆者の訳>

[トピック提示?] こわれた物にさわると、けがをします。

[行動指示] 家の中でも靴をはいてください。

[行動指示] 厚い手袋をつけてそうじをしてください

筆者は各文を簡単な言い回しにするので精一杯で、手順にあった「理由説明」までには至りませんでした。「やさしい日本語」化ができるようになるには、少し訓練が必要なようですが、伝える相手をイメージしながら情報を組み立てなおす作業は非常に面白く感じました。

■講演会を終えて

情報を伝える相手をイメージして適切な言葉や言い回しを考えたり、情報を組み立てなおしたりする発想は、これまで標準化研究 WG で追求してきたテーマである「使い手と作り手のコミュニケーション向上」のヒントになりそうです。

「やさしい日本語」の取り組みには、災害時の役割だけでなく、日常のコミュニケーションのありかたを考えていくうえでも非常に興味を感じました。

前田先生にはご多忙の中、IAUD サロンまでご来場いただき、大変興味深いご講演をいただきました。ありがとうございました。(了)

前田講師に紹介いただいた「やさしい日本語」支援システム「やんしす」は、趣旨をご理解のうえご利用になれます。下記サイトをご覧ください↓

<http://www.spcom.ecei.tohoku.ac.jp/~aito/YANSIS/>

IAUD 2012年3月の予定

- 1日 (木) 15時～ メディアのUDPJ定例会 (IAUD サロン)
- 2日 (金) 15時～ 研究部会会合 (IAUD サロン)
- 6日 (火) 15時～ 運営企画会議会合 (IAUD サロン)
- 8日 (木) 13時～ 労働環境PJ定例会 (住友スリーエム東京支店)
- 14時～ 食のUDPJ定例会 (IAUD サロン)
- 9日 (金) 13時～ 移動空間PJ定例会 (IAUD サロン)
- 13日 (火) 15時～ 第6回理事会会合 (ANA 訓練センター)
- 22日 (木) 13時～ 2011年度IAUD成果報告会&国際会議プレイヴェント
(パナソニックセンター東京)
- 28日 (水) 15時半～ 第2回評議委員会 (セルリアンタワー東急ホテル)

「成果報告会&国際会議プレイヴェント」の詳細はこちらにリンクしてください↓

<http://www.iaud.net/event/archives/1201/25-000000.php>

次号は3月下旬発行予定

特集：2011年度IAUD成果報告会&国際会議プレイヴェント開催速報 (予定)

無断転載禁止

IAUD 情報交流センター (IAUD サロン) :
〒104-0032 東京都中央区八丁堀 2-25-9 トヨタ八丁堀ビル 4 階
電話 : 03-5541-5846 FAX : 03-5541-5847 e-mail : salon@iaud.net